

東和大、存続の瀬戸際

募集停止 教授解雇の構え

福岡市南区の東和大が創立40周年にあたる来年度の学生募集停止を決めた。少子化などで学生の確保が難しくなったためだ。大学側はこの間に対立する教授らの解雇を進め、新たに生き残り策を模索する構えだが、私大経営をめぐる状況は厳しい。在校生が卒業する09年度末の後も存続できるのかどうか。同大は、瀬戸際に立たされている。

「40年続いた大学を簡単ににはつぶせない。早く募集を再開したい」。大学を運営する学校法人・福田学園の山崎正行常務理事は会見で、存続に意

欲を示した。文部科学省一校生の卒業を待つて廃止する予定」と記されている。だが、大学側は「報告書にひな型があり、そ

う書く必要があった」と廃校を決めてはいないと説明した。同大は05年度に赤字に転落し、06年度には創立以来初めて入学者が定員に達しなかった。少子化や学生の理系離れの中、工学部単科のままでは学生確保は難しいと判断。

文系学部設置などの学部改編案を教授会に提案したが、反対を受けて断念した。対立が続けば改革を進められず、赤字が拡大するを考え、募集停止を決めたとしている。だが、同大教授で教職員組合の斎藤輝二委員長は、早期の募集再開をめざすという方針について「前日の交渉の席では報告がなく、急にニュアンスが変わった」と指摘。「教員の雇用や学生のことを考えると決定は許されない」と話す。教授会は24日午後、募集停止の決定に反対することを改めて確認した。全国の私大の経営状況は厳しさを増している。日本私立学校振興・共済事業団（東京）のまとめによると、今年度、全国の4年制私大550校のうち、定員割れは222校と約4割に上り、過去最高となった。4年制では、03年に広島県の立志館大が休学（04年に廃学）したほか、秋田国際大（山口県萩市）が05年6月に民事再生法を申請し、新しいスポンサー企業のもとで経営再建に取り組んでいる。

収入増図る新学部案、否決された／改革進まず系列校反発

山崎常務理事の会見

山崎正行・福田学園常務理事の会見の主な内容は次の通り。

——どうして募集停止を決めたのか。

18歳人口が減り、工学部に人気がない。九州の子が福岡ではなく東京に出るようになった。奨

学金などでダンピングしていたが、今年入った学生は留学生を除くと120人。05年は180人、04年は220人。来年は100人を割ると予想できた。定着率も悪く、毎年40～50人が辞める。——学部再編ができなかったのは。教授の雇用確保のため

——教授会との対立があるようだ。

我々はずっと話し合っていた。過去5年で1本も論文を書かない教授もおり、全員を雇用するのは無理。職員は最近、10人ほど退職してもらった。教授も早い時期から解雇したい。



会見する山崎正行常務理事＝福岡市南区で

2006.8.25

2006.8.25 土曜日

大止 和停 東募 集集

「学生に説明ない」

怒りの声 不信感あらわ

東和大(福岡市南区)を運営する学校法人福田学園が同大の2007年度の学生募集の停止を決めたことが明らかになった24日、在籍する学生たちにも動揺が走った。09年度にも廃校になる可能性が高くなったが、「学生に何の説明もない」「安心して授業が受けられるのか」といった怒りや不安の声が聞かれた。

夏休み中だが、資格試験の勉強のために大学に来ていた3年の北村純一さん(21)は「自分たち学生には一切、説明がないまま話が進んでいる。学長に聞きに行っても何も説明してもらえない。不安だし、大学への不信感が募る」と怒りをあらわにした。3年の古川祥子さん(20)は「この問題で体調を崩している先生もいる。安心できる環境で授業を受けるためにも、何とか今のままで大学を存続させてもらいたいが、無理なんでしょうか」と表情を曇らせた。

就職活動中の4年の男子学生(21)は「授業内容も満足していた。もうすぐ卒業だが、母校がなくなるのはとても寂しい」と肩を落としていた。

夏休み中だが、資格試験の勉強のために大学に来ていた3年の北村純一さん(21)は「自分たち学生には一切、説明がないまま話が進んでいる。学長に聞きに行っても何も説明してもらえない。不安だし、大学への不信感が募る」と怒りをあらわにした。3年の古川祥子さん(20)は「この問題で体調を崩している先生もいる。安心できる環境で授業を受けるためにも、何とか今のままで大学を存続させてもらいたいが、無理なんでしょうか」と表情を曇らせた。

或のニュース

2006年(平成18年)8月25日(金曜日)

来年度募集停止の東和大

生徒、教員に不安と怒り

「母校がなくなるのか」「雇用はどうなる」。来年度の募集停止を決めた東和大(南区)では、在校生や教職員らに不安や怒りが広がった。

「『売れないから売るのをやめる』的発想は教育現場にふさわしくない」。24日の工学部教授会の直前、教員の一人が語気を強めた。関係者によると、教授会には教員48人のほぼ全員が出席。岩橋正國学長の責任を追及する意見が相次ぎ、早期に募集再開を求めることで一致した。ある教員は「先に結論ありきで、

納得のいく説明は何もない」と話した。教授会は紛糾し、終了は開始から約3時間40分後の午後8時10分過ぎだった。

今春入学した男子学生(19)は「希望を抱いていたのに。後輩が入らないのは僕らにとって重大な納得できない」。就職活動中の男子学生(22)も「就職に影響が出ないか心配

だし、母校が無くなるなんて悲しい」と話した。74年に卒業した自営業の男性(55)は「経営者の無能ぶり、極まっていた。1千数百人の卒業生に申し聞きてくれるのか」と語った。

運営する学校法人福田学園関係者によると、在校生が卒業する09年度末で廃校にする方針で、教員は順次解雇するとしている。

【大久保賢宏】

毎日、朝刊